

答辞

「雪がきれい」と皆で窓の外を眺めていたのはついこの間。

日差しは日増しに和らぎ、校庭の桜の蕾も色付きはじめ、その窓から見える風景にも春の気配を感じる季節となりました。いつもと変わらない春なのに、どこか寂しさを感じます。不安や期待が入り混じる私たちに、あたたかな春の訪れが、優しく包み込み勇気づけようとしてくれていきます。

原山台中学校 五十一期生は今日 卒業します。

大切な仲間と歩んできた私たちの三年間の奇跡の軌跡を振り返りたいと思います。

二〇二二年 四月

満開の桜が舞い散る中、着慣れない、少し大きめの制服を身にまといこれからの生活への期待と、少しばかりの不安を感じながら新・中学生としてのスタートをきりました。小学生気分がぬけず、先生方に迷惑をかけることも多かつたように感じます。思い返せば「チャイム鳴ってんで、〇組の人は一組に戻りや」とよく言われたものです。思い返せば「チャイム鳴ってんで」「〇組の人は一組に戻りや」とよく言われたものです。

入学してまもなく、中学校生活にも少し慣れたころ、校外学習で関西サイクルスポーツセンターに行きました。行きかえりのバス、班になって作ったカレー、色々な自転車に乗ったことなどは遠い昔のように感じられます。

冬にはスキー合宿に行きました。スキーでは皆楽しく滑りました。夕食後のレクリエーションでの熱気が雪をも溶かす勢いでした。就寝時間後の部屋での話は先生方には内緒です。

一年生になり、これから起こることにわくわくしていた私たちはとにかく全力で楽しむ毎日でした。楽しむことに全力過ぎて目を背けたくなるような成績をとってしまうこともありました。

保育体験では触れ合うなかで見せてくれる子供たちの笑顔や喜びに癒されました。私たちにもあんな頃があったのかな。

校外学習は堺巡りと大阪巡り。自分たちで考えて行動することで各々沢山の思い出が出来ました。先生方は私たちが無事に帰ってくると信じてくれました。

そして三年生になり、「卒業」という言葉が近づいてきました。

最高学年として原山台中学校の名を中心となって背負っていくことになりました。

待ちに待った修学旅行では沖縄に行きました。出発前からたくさんの取り組みをしました。ルールを作ることに珍しく真剣に取り組みました。理解を得ることや説得することの難しさを学んだように思います。

一日目 平和学習

平和宣言を行いました。ひめゆり資料館や平和記念資料館に行きました。戦火の写真に目を背けたくなくなりました。目を背けてはならないと思いました。

二日目 伊江島での民泊

海も山も美しかったです。おじいもおばあも優しくかったです。たった一泊だけなのにお別れが寂しくなりました。なぜだか自分の家族も思い出しました。

三日目 美ら海水族館・国際通り

シンベイザメ、ちんあなご、ちんすこう、紅芋タルト…。三日間の思い出もお土産もカバンに入りきらないほどでした。

行事には何でも「最後」が付くようになりました。

最後の体育大会。競技開始から仲間に、後輩にも、声援を送って声を枯らしました。「大縄なんて」と思っていたのに気が付くとみんなで息を合わせて必死。白熱し最高の戦いになりました。

五十一期生全員でのダンス。ダンス委員が中心となって体育の時間に教えあいました。慣れない動きでしたが、練習を重ねることに上達していききました。迎えた本番では、最初こそは緊張しましたがカッコいい振り付けやかわいい振り付けを皆で夢中になって踊ることが出来ました。心が一つ

になるとはこういう時間のことなんだと実感できました。

フェニーチェ堺での連合音楽会。大きなステージもみんなと立っていると怖くなかったな。たくさんの学校が歌う中、原山台中学校の代表として一杯歌いました。

そして最後の文化活動発表会。一組も二組もライブでありながらお互いに高めあい、当日では最高のパフォーマンスを披露することが出来ました。みんなで心を合わせて歌うことによって、信じあえる事の喜びと悲しみを知った分、私たちは優しくなれたのではないのでしょうか。後輩たちの歌声もすこかったな。きつと来年はもつとすこい合唱をつくってくださいね。

大切な仲間たちと過ごした日々はきつと、ずっと私たちの宝物。そして私たちの今があるのは確実に皆さんのおかげです。

いつも私達を温かく見守ってくださった先生方。私たちのやりたいことを優先させてくれ、時には心を鬼にして叱って下さり、私達は一步ずつ前へ、前へと進めました。先生方から教わったこと、特に、友達に対して自分の気持ちを自分の言葉で伝えること、当たり前のことが大切であることをこれからも忘れずに私たちに成長しようと思います。

家族の皆さん、私達のことを思っていていつも、いつでも寄り添ってくれました。ですが、私たちはそれを素直に受け入れることができず、冷たい態度をとってしまったと思います。どんな時も私達の温かな居場所になつてくれていたのに。今なら言えます。大好きです。ありがとうございしました。それから、お弁当も、お洗濯も…

在校生のみなさん四月からは学年も上がり新たな挑戦をすることになります。時には、悩むこともあるでしょう。しかし、みなさんには信頼できる先生方や仲間達、皆さんのことを一番に思ってくれる家族がいます。正面からみなさんと向き合い正しい方へと寄り添ってくれます。これからもたくさんの人に応援してもらえる原中生でいてください。

大切な仲間たちへ、私たちは小学校の頃からいつでも一緒にいましたよね？しかし、そんな当たり前のことも今日で終わりです。

思い返してみてください。

いつも同じ話ばかりしていた通学路

八時二十九分四十六秒に走りこむ昇降口

チャイムが鳴ったと同時に一斉に走り出した廊下

傷つのが怖くて、嫌われるのが怖くて、みんなが居るのに一人ぼっちのような気がした教室も

「ゴメンね」と「ありがとう」を重ねて、またいつもの顔ぶれと笑い声に包まれた教室も

すべてが私達のかげがえのない大切な時間です。

時には頭を抱えて悩んでしまうこともあるでしょう。そんな時は思い出してください。私たち出期生の顔を。あなたはひとりではないことを。私たちの絆は決して切れない強いひもでつながれています。私達の友情は星のように離れていても同じ空で輝き続けるでしょう。

皆でスタートをきった三年前、私たちは今、手をつないで目の前のシン・中学生のゴールテープをきろうとしています。学年たった二クラスの小さな中学校でした。けどこの先、「井の中の蛙大海を知らず」なんて言われたくはないのです。私たちの「これまで」と「これから」できつと世界はどこまでも広がると思っています。また未来で会いましょう。

最後になりましたが原山台中学校の今後のますますの発展と本日お越しいただいたすべての方々のご健康とご多幸を心よりお祈りし私たち五十一期生の別れの言葉とさせていただきます。

令和二年3月14日

卒業生代表 S R

Y M